



# か がやく す まいる い いかんじ 通信

## 第6回「ワークショップデザイン★班別相談」

吹く風も日を追うごとに冷たくなっていく11月。外は冷たい風でもかすいの月例会は熱く盛り上がってきています！

先月は、齋藤先生が南三陸へ長期出張ということもあり自主学习でしたが、先生と大学生の取り組みは、まさに皆さんがこれから組み立てていく「ワークショップ」そのものをふんだんに活用した実習だったとの報告。地方との「関係人口」（観光客以上移住未満の関係の人たち）をどう増やすかということがキーになるというお話に、そこに住むだけではなく、サポートする方法があるのかと新たな視点に気づかされました。



今回は、ワークショップデザインを具体的にしていくために、話し合いを進めていきます。まずは先生から、KJ法、板書、かみぼ（紙芝居のように、プレゼンテーションしていく）、ワールドカフェ、大きいふせん、えんたくんなど様々なワークショップ手法について説明がありました。それぞれに特徴があるので、自分たちのやりたいワークショップにどの手法が適しているのか…迷いますね。



先生からはワークショップを組み立てるためのワークシートについて説明がありました。記入の際には、「起承転結」を意識して時間配分をすることや、「Tips」とは「コツ」のことで、このワークショップを実施するにあたり、こんなところに気をつけるといいよ！という実践したからこそわかることを記入すると、実際にこのシートを見てやってみようと思ったときに、とても参考になる、というお話もありました。

↑どこかで見たことがあるような、ないような…ボール型のワークシート！

後半は、先生が各班を回って個別相談会です。ワークショップの内容について先生が示されたシートに沿って、まとめていきます。各班の話し合いが進む中、先生が班に回って質問を受け付けていきます。同時に、センタースクエアがどなたのところか、見学に行く班もありました。会場を見た班からは、なんとなくイメージがわいたかな、というお話も。



### 先生からのアドバイス

- ★ 1回のワークショップの適正人数（上限）を想定
- ★ 時間は30分～60分で2セットくらい（学習発表会のワークショップ時間は2時間程度の予定）
- ★ 大学生による小学生向けの遊びスペースあり
- ★ 保育士さんによる保育スペースあり（家庭教育推進員のお子さんのみ預かります）
- ★ 起承転結の起・結では参加者間で簡単に意見共有すると Good!

12月は実際にやってみる会です。提出いただいたワークシートはどれも具体的になっていて、どんなワークショップになるのか、わくわくしながら拝見していました。各班それぞれに工夫があり、皆さんのこれまでの「できる」が生かされているなと感じました。とても楽しみです！

★裏面には、チーム manabono さんがまとめてくださった第5回の記録が掲載されています★

～「かすい」の活動が教育委員会HPにも掲載されています。是非ご覧ください！→



## 【チーム manabono さんによるまとめ】

2月に行われる学習発表会へ向けて、各班ごとに計画しているワークショップの内容を具体化して行きました。

###チームマナボノ 振り返り###

今回のテーマは『ワークショップデザイン法』として、「場作り」「グループサイズ」「問い」「見える化」「プログラムデザイン」5つのスキルを学びました。ワークショップを時系列に沿って起承転結に割り当てて書き出す作業では、ぼんやりしていた計画に具体性が出てきたように思います。

チーム manabo~no では、それぞれの性格や得意なことが自然と活かされています。先生のアドバイスを受けチームみんなのアイデアと意見が段々と形になっていく事が楽しく、月一回という限られた時間の中で作り上げなければならない難しさはありますが、上手く役割分担をしてみんなが楽しみながら活動していけたら良いなと思います。



## 【第6回 みなさんからいただいた感想です（抜粋）】

### ★私が気づいたのは…

- ・ひとつの事をやるには場作り、人数設定、タイムスケジュールなど、ポイントが大切。色々な方法がある（かみぼ、KJ法、ワールドカフェなど）
- ・「見える化」する事で振り返りしやすくなる。ワークショップがだんだん形になっていくのが楽しい。
- ・何を目的とするかなど、コンセプトを持ったワークショップを作るのは大変。起承転結は難しい。
- ・意外とまとまっていなかった（内容が）
- ・「少人数クラス」基本進行案おまとめシートはとてもわかりやすいです。
- ・グループが6~7人いると意見をまとめてくれる人がいないと時間がかかり過ぎてしまうと思いました。一人でもいるとスムーズにまとまります。
- ・学び合う場の具体的な作り方
- ・目的に繋げていく内容を考えるのが難しいと思った。
- ・人が集まって話し合うと色々な事が知れて楽しい。

### ★私が一番印象に残った言葉は…

- ・「かみぼ」、「えんたくん」、等の見える化方法
- ・場づくり、グループサイズもワークショップ進行に影響する。
- ・「えんたくん」ちょっとしたアイデアで話し合い等に楽しみを持てるようになったと思った。
- ・言葉というかテーマを決めて話し合う事は大事ななと思った。（あまり普段しない事）
- ・大学生が被災地に行ってワークショップなどをしていることが、とても良い事だと思いました
- ・誰に伝えたいのかターゲットをしぼる
- ・グループサイズ シュミレーションして、やりやすいグループサイズがあるのかなと思いました。
- ・話しやすい問いかけをする。
- ・会議の時のテーブル配置がとても参考になった。

### ★私にとって必要だと感じたのは

- ・ワークショップの概念と実践のつながり
- ・ワークショップのコンセプトを明確にする
- ・柔軟な発想
- ・理解力
- ・役割分担
- ・書き出して整理するプロセスの習得
- ・人に伝える力。分かりやすくイメージを相手にプレゼンする能力
- ・テキパキとグループワークを進行できるファシリテーションを高める！
- ・今作ろうとしているワークショップは子どもへのイメージが強かったけど大人にも必要かも
- ・皆で出し合った意見をまとめる力。自分の考えを分かりやすく伝える力
- ・話し合いをする際、場づくり(テーブルの作り方、座り方等)により違うという事が分かったので、そういった事を考えながら場を作る事が大切だと思いました。

### ★私がこれから実行しようと決めたことは…

- ・別の機会でワークショップをやってみる
- ・面倒がらずに相手と向き合う
- ・自分達で作ろうとしているワークショップ(ほかほか言葉)日常でもどんどん使う。その場で終わっては意味がない
- ・いつもまとめてくれる人に頼るのではなく自分の出来る事を見つけて実行してみる
- ・参加者が楽しめるような“見える化”をする